

## 2019年度 施設関係者評価委員会の総合的な評価

### 施設関係者評価委員

荒堀智美 井上薫 高橋徳庫 安田光則

- ・園内の環境である掲示や装飾・展示に努力や工夫が見られ、幼稚園の保育がうまく回っていることがうかがえる。一度保育の中で用いたもの（ペープサートなど）も、子どもたちの求めに応じて、再度活用したり自由あそびに活用したりして、子どもたちの興味や関心が深められている。
- ・ユネスコ活動など各活動で得ることのできた達成感が、次の保育につながっていると感じられる。
- ・土の中から“いのち”が芽生えることを体験するなど、ユネスコ活動において深められた“いのち”についての学びは、キリスト教保育においても、とても大切だと感じる。
- ・イエス様が真ん中にいて下さる幼稚園だと感じる。子どもたち同士のいざこざが少ない。園でその子どもの行動自体をほめる言葉「すてきだね」を、家でも共感して使っている。
- ・運動会で聖書の話が全面的に使われたことについては、自分としては嬉しいことだったが、他の保護者はどう感じただろうかと思った。
- ・幼少期に聖書のお話に触れることは大切だと思う。運動会に続きこはんまつりでも聖書の話が中心となり、子どももその内容をよく理解して、楽しんでいる様子だった。つながりのある内容だったので子どもも受け止めが深く、親としてはありがたかった。
- ・様々な活動を通じて、子どもたちが互いに協力し合ったり、思いやったりすることができ、周囲への配慮ができる子どもに育っている。
- ・ユネスコ活動のピザ釜やピザづくりのために協力してくれていた方々への感謝の思いが、子どもたちの笑顔からとてもよく伝わってきた。色々な人との交わりを楽しみながら活動でき、豊かな人と人との関わりが深められたと思う。

以上